

カリキュラムマップ（日文：教職・司書関係）

教職・司書関係(日文担当)カリキュラム							カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目				
授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
教職論(中高・養・栄)	学生が、この科目の履修によって、教職に関する知識理解を深め、自分の適性との兼ね合いを熟考して、ほんとうに教職課程の履修を続け、教職を志望進路とすべきかどうかを的確に判断できるようになることを、目指したい。学校教育の担い手となる教員には、教員としての使命感・責任感、教育的愛情が不可欠である。その上で、教員として求められる専門的能力とその向上を目指す姿勢が必須となる。これら教員の資質能力は、教員人生を通じて図られるべきものであるが、意図的な始点となるのが、「教職論」の履修であろう。これまで自分が受けてきた学校教育で接した多くの先生方を通じて得た教師像をもとに、あるいは社会一般の教職に対する相対的評価や自分の特性を考慮して、自己の進路として教職を目指す者が、「教職論」の受講を経て、改めて自己の進路選択として教職を加えるべきかどうかの判断ができるような授業としたい。	1. 教職の意義、教員の役割と使命を理解することで、教職についての関心を深め、教職の専門性について理解する。 2. 学校組織における教員の職務内容を理解し、如何に教員が自らの資質・能力の向上に努めなければならないかを、認識する。 3. 教職の特性を踏まえ、改めて教員志望の目的や理由を考え、自らの意欲や適性について熟考する機会を得る。	2○	1～2	後期	1	問題解決学習、グループ・ディスカッション、プレゼンテーション	◎		○	
国語科教育法I	国語科教育法はⅠ～Ⅳを通じて目標が達成されるように授業を構成する。可能な限り学生が主体的能動的に学習できるように留意する。授業技術の修得はもちろん、知識・方法の修得も、実際の教科書を使った授業の各場面を具体的に想定して、効果的な授業指導のあり方を検討し、体験的に学習できるように工夫する。国語科教育法Ⅰでは、国語科の目標の理解や、国語科教員としての専門性の向上を期して、国語の基礎学力の定着も図る。	学習指導要領にある国語科の目標や内容を理解する。中学・高等学校の国語科教員として身に付けておかなければならない能力、とりわけ国語科の授業を成立させるために必要な、基礎・基本の内容を修得する。学習指導案の作成、教材研究のあり方の基本を修得する。	2	2	前期	2	グループ・ワーク、プレゼンテーション	◎		○	
国語科教育法Ⅱ	国語科教育法はⅠ～Ⅳを通じて目標が達成されるように授業を構成する。可能な限り学生が主体的能動的に学習できるように留意する。授業技術の修得はもちろん、知識・方法の修得も、実際の教科書を使った授業の各場面を具体的に想定して、効果的な授業指導のあり方を検討し、体験的に学習できるように工夫する。国語科教育法Ⅱでは、想定授業の実施体験を通じて、課題の確認と改善対策を考え、学ぶ。Ⅰに引き続き、国語科教員としての専門性の向上を期して、国語の基礎学力の定着を図る。	学習指導要領にある国語科の目標や内容を理解する。中学・高等学校の国語科教員として身に付けておかなければならない能力、とりわけ国語科の授業を成立させるために必要な、基礎・基本の内容を修得する。主体的な授業改善の姿勢を身に付ける。	2	2	後期	2	グループ・ワーク、プレゼンテーション、模擬授業	◎		○	
国語科教育法Ⅲ	国語科教育法はⅠ～Ⅳを通じて目標が達成されるように授業を構成する。可能な限り学生が主体的能動的に学習できるように留意する。授業技術の修得はもちろん、知識・方法の修得も、実際の教科書を使った授業の各場面を具体的に想定して、効果的な授業指導のあり方を検討し、体験的に学習できるように工夫する。国語科教育法Ⅲでは、想定授業の実施体験を通じて、課題の確認と改善対策を考え、学ぶことに加え、50分の模擬授業も実施する。Ⅰ・Ⅱに引き続き、国語科教員としての専門性の獲得を期して、国語力の向上を図る。	国語科の授業指導のための基礎学力の定着を図る。教科書の教材をもとに、効果的な授業の構成・展開ができる。読解力養成につながる適切な発問・設問作成の技術を修得する。実際の国語の授業で必要な幅広い知識や表現力・思考力の重要性を理解する。	2	3	前期	3	グループ・ワーク、模擬授業			◎	○
国語科教育法Ⅳ	国語科教育法はⅠ～Ⅳを通じて目標が達成されるように授業を構成する。可能な限り学生が主体的能動的に学習できるように留意する。授業技術の修得はもちろん、知識・方法の修得も、実際の教科書を使った授業の各場面を具体的に想定して、効果的な授業指導のあり方を検討し、体験的に学習できるように工夫する。国語科教育法Ⅳでは、事前に作成した学習指導案に基づいて50分の模擬授業を実施する。Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに引き続き、国語科教員としての専門性の獲得を期して、国語力の向上を図る。	教材を効果的に生かした、学習指導案の作成と実践的な50分の模擬授業が実施できる。国語力とは何かについて、学習指導要領に示された内容に立脚して自分なりの表現で解説できる。	2	3	後期	3	グループ・ワーク、模擬授業		△	◎	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
図書館概論	図書館を利用したことはあっても、その職員の業務内容や、カウンターのバックヤード・事務室などで、どのような業務が遂行されているのかを正確に把握している学生は、多くはないと思われる。この授業では、まず、「司書」資格と、本学の「司書課程」について、受講生が正確な理解を得られるように説明する。その上で、図書館を構成する要素(資料・施設・職員・利用者)、図書館の社会的存在意義、各種の図書館とそれぞれの機能、などについて、基本的な知識を、受講生が身につけることをめざす。	図書館に関する基本的な事項について理解する。各種の図書館(公共図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館、国立図書館など)の現状を把握し、図書館の現代的課題とその背景にある事情を、受講生が、自身の言葉で表現できるようになる。	2	2	前期	2	発見学習、問題解決学習、調査学習、	◎	○		○
図書館制度・経営論	日本の公共図書館の制度・経営についての基本的な知識を習得するとともに、現代の図書館が直面している様々な事象―自治体における図書館の位置づけ、図書館の自由、電子化、危機管理、予算の確保、施設・設備、専門職員の配置、経営形態の多様化、等々についての問題点を整理・把握し、図書館経営のあり方について考察する。	日本の公共図書館を規定している法律などの制度について、基本的な事項を理解する。現代の図書館経営について、多様な経営形態が出現してきている現状とその背景を理解し、各種の課題解決のために必要な対応について、受講生が自身の考えを、表明できるようになる。	2	3	前期	3	問題解決学習、調査学習、プレゼンテーション	◎	○		○
図書館情報技術論	コンピュータなどの情報機器の基本について学ぶとともに、情報メディアの利用法についても理解する。図書館では、さまざまな情報機器やメディアを利用してサービスを行っており、それらのサービスについても理解を深める。	図書館にあるさまざまな情報機器やメディアについて、その活用ができるように理解する。	2	3	後期	3	問題解決学習、調査学習、グループ・ディスカッション	◎	○		○
図書館サービス概論	図書館に投入される資源が厳しく抑制される一方で、メディアの多様化がすすんでいることもあり、図書館サービスに対する利用者の要求は、拡大する傾向にある。日本の公共図書館サービスに関する歴史の変遷について理解したうえで、現代のメディア状況と利用者の動向をふまえ、図書館サービスの現場で起きている状況について基礎的な知識を身につける。	図書館サービスの近年の状況について把握し、図書館現場における課題とその解決のための方策を、受講生が、自身の言葉で表現できるようになる。	2	3	後期	3	問題解決学習、調査学習、グループ・ディスカッション	◎	○		○
情報サービス論	インターネットが社会的な基盤として定着し、スマートフォンなどの機器が急速に普及しつつある現代日本の社会において、日常生活に必要な情報入手から、学術的な調査研究まで、多様な局面における情報の収集と利用の面で、図書館がどのような役割をはたしているのか、について理解する。実際に行われている、図書館の情報サービスについて、現代のメディアの多様化を背景に、現実に図書館で行われているサービスの内容について、正確な知識を身につける。	図書館の情報サービスに関する基礎知識をもとに、さまざまな実践例について、実態を把握し、さらに、図書館現場で生じている現代的課題とその対処法について、受講生が自身のことばで、説明できるようになる。	2	3	前期	3	発見学習、問題解決学習、調査学習	○	◎	○	○
児童サービス論	児童サービスの意義や役割を理解し、子どもを知り、子どもの本を知り、子どもと本を結びつける知識や技術を学んでいく。子どもの本について資料の種類や特性、その活用方法についての学びを通して技術を習得し、児童を対象とした各種のサービスや児童室の管理・運営など総合的に理解を深め、児童図書館員の専門性についても考察を深める。	1. 児童サービスの意義、役割についての理解を深める。2. 児童図書館(児童図書コーナー)の運営や子供の発達段階に応じた児童図書の様々な資料の知識や特性を学修し活用できる力を養う。3. 子どもと本を結びつける知識や技術、コミュニケーション方法を習得し、実践することができる。	2	3	前期	3	体験学習、グループ・ディスカッション、プレゼンテーション	◎	○	○	○
情報サービス演習Ⅰ	情報を求めて図書館にやってくる利用者とのコミュニケーションを円滑に行うために必要な配慮について学ぶ。情報サービスを提供するための図書館の施設・設備に関する近年の状況について、サービスに対応する職員のがわに必要とされる知識とあわせて、正しく理解する。利用者とのコミュニケーションや事実調査などの演習を体験することにより、主要な情報源の特徴を理解し、実践力を身につける。	レファレンスサービスに関する基礎的事項を理解し、授業中やホームワークとして、課題に取り組むことで、受講生が、実際のレファレンスサービスを行うがわになった際に、ある程度、適応できるような対応力をもてるようになる。	1	3	前期	3	問題解決学習、調査学習、グループ・ワーク	○	◎	○	○
情報サービス演習Ⅱ	レポート作成や就職活動、日常の問題解決において有益な情報を収集するために役立つ、ネットワーク情報資源と甲南女子大学図書館が提供するサービスとについて学び、それを利用するための知識と技術を身につける。	レポート作成や就職活動、日常の問題解決において、ネットワーク情報資源と甲南女子大学図書館を利用し、必要な情報を入手できるようになる。	1	3	前・後期	3	問題解決学習、調査学習、グループ・ワーク	○	◎		○
図書館情報資源概論	現代社会において、メディアは多様化しており、それに対応して図書館で収集・提供する情報源の範囲は拡大している。多様な資料について、その種類と特徴、資料選択の理論と実際、収集方針、利用者の要求と資料選択、資料の保存と管理、などの点について基礎的な知識を身につける。	図書館情報資源の現状と将来的な方向性について一定程度理解し、図書館資料選択の望ましいあり方について、受講生が、自身の見解を表明できるようになる。	2	2	後期	2	問題解決学習、体験学習、調査学習	◎	○		○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※ の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
情報資源組織論	図書館の情報資源組織について学ぶ。(自身が求める情報を主題によって探す主題検索とそのために必要な主題分析について意識し、情報の検索に有効な法則とその活用法を、図書館の分類・件名・目録という手法から学ぶことを目的とする。)	図書館には膨大な数の資料やメディアがあり、利用者が求める資料(情報)を探し出すために資料の「並べ方(分類法)」と「探し方(目録法)」、さらには「キーワード(件名法)」等による手段(準備)がある。これらは「資料の組織化＝情報資源の組織論」と呼ばれ、主題(ジャンル)を軸に情報を探すための有効なシステムである。そこで、受講者はこの仕組みの概要に触れ、主題検索や主題分析の重要性について理解するとともに、図書館における情報を探し出すため手段を活用することを目指す。	2	3	前期	3	発見学習、問題解決学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベート	◎	○		○
情報資源組織演習Ⅰ	図書館資料の分類(主題目録作成)について、日本の多くの図書館で用いられている規則をとりあげ、演習と解説を行うことで、受講生が図書館での資料組織化についての理解を深める。	日本の多くの図書館で採用されている、資料の分類に関する規則(日本十進分類法)についての基礎知識をもとに、演習問題とその回答・解説を、くりかえして実施することにより、受講生が現実の図書館での資料分類業務に、ある程度、対応できる実践力を身につける。	1	3	後期	3	体験学習、調査学習、グループ・ワーク	○	◎	○	○
情報資源組織演習Ⅱ	「情報資源組織論」の学習をふまえて、さまざまな情報資源を活用するために、書誌データの作成の演習を通して情報資源の組織化についての実践的な能力を養成します。	書誌データの作成等を通して、利用者にわかりやすく情報資源を目録データとして記録する技術、既存の書誌レコードを識別・同定できる理解力を身につけます。	1	3	前・後期	3	体験学習、調査学習、グループ・ワーク	○	◎	○	○
図書館基礎特論	図書館が社会的にどのような存在であると認識されているのかについて、多様な事例に基づいて検証する。フィクションの作品における図書館の描かれ方の分析を通して、図書館がフィクションの制作者のがわに、どのようなイメージでみられているのかについて理解する。	図書館が、社会的にどのような存在であると認識されているのかについて、さまざまな事例を検証し、理解を深める。各メディアにおける図書館の取り上げられ方や、フィクションの作品に描かれた図書館・図書館員のイメージについて考察し、図書館はどうみられてきたか、を検討する。図書館サービスを提供するがわが知っておくべき、図書館の社会的イメージについて、受講生が自身のことばで表現できるようになる。	2	2	後期	2	発見学習、体験学習、調査学習、プレゼンテーション	○	◎		○
図書館サービス特論	まず図書館に関係する読書、教育、法制度、情報技術の現況について、できる限り幅広く考察する。この知見を前提に、各自が、実在する市町村立図書館を念頭に置いて、興味を持っているテーマのサービス計画を立案する。	前半で、現代の図書館がさまざまな面で大きく変容しつつあることを理解する。後半で、公立図書館の評価手法を学び、各自が選んだ市立図書館の現状と課題を整理した上、サービスの方策と計画を実際にまとめられるようにする。	2	3	前期	3	体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション	○	◎		○
図書館情報資源特論	調査研究に用いられる専門的な資料を学術情報(専門資料)と呼ぶ。学術コミュニケーションの構造(学術情報の生産・流通・利用)について理解を促す。各種学術情報について知識の修得を促す。	学術コミュニケーションの構造および各種学術情報について説明できる。	2	3	前期	3	問題解決学習、調査学習、プレゼンテーション	◎	○		○
図書館施設論	図書館建築をめぐる現代の動向について、実際の状況を写真・パンフレット・ホームページなどで紹介することで、受講生が、今日の図書館建築にみられる特徴について、理解を深める。	図書館の施設・設備に関する基礎的な知識に基づき、受講生が、実際に、図書館を訪問して、その施設・設備に関する評価を、自身の言葉で表現できるようになる。	2	3	後期	3	発見学習、体験学習、プレゼンテーション	◎	○		○
図書・図書館史	図書・図書館の歴史の概略について、基本的な知識を身につける。図書館が公的な経費(税金)で設立・運営されるに至るまでの過程について、①ヨーロッパおよびアメリカ、②日本、それぞれについて、各種の図書館の変遷を理解する。	人類の記録メディアのたどってきた道のりについて、図書を中心に、歴史的な経過を理解する。図書館の歴史に関する基礎知識を身につけ、それをふまえて、現在の図書館状況が成立するまでの過程を、受講生が自身の言葉で説明できるようになる。	2	2	前期	2	発見学習、問題解決学習、調査学習	◎	○		○